

第 244 回 昭和の森自然観察会

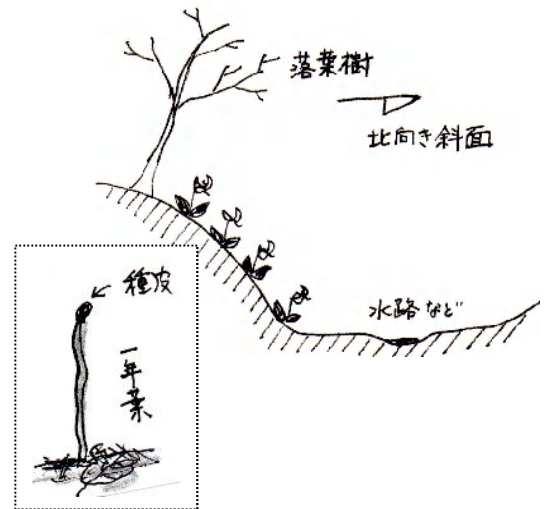
カタクリは見た！ 谷津のドラマ

堀 泰洋（千葉市）

日時：2012年4月8日（日）13～15時 天候：晴れ
参加者：16名（大人13名、子供3名） 指導員18名
担当指導員：盛一昭代 小林義和 堀 泰洋

今年の春はスタートが遅く、4月になっても肌寒い日が続きました。そのため、例年ピークを過ぎている桜やカタクリがちょうど見頃を迎えており、昭和の森はお花見を楽しんでいる人であふれていました。今回の観察会は、カタクリを中心に、カタクリの生息環境である谷津とそこに棲む生き物たち、そして人との関わりをテーマにしました。

集合場所の東屋から階段を下り、菖蒲田に出ると、左右を斜面に囲まれた谷津地形が表れます。このような地形は、氷河期、縄文海進期を経て形成されたこと、弥生時代以降、水利を活かして稲作が営まれ、その周りでは落ち葉や材木などを利用した生活が行われていたことなどを説明しました。そのような人の関わりがあってこそ生息することのできるカタクリですが、参加者の方は、落ち葉の隙間からヒョロヒョロと芽を伸ばしている‘一年生のカタクリ’を目にして、そのことをよく理解された様子でした。



谷津の上流部にはため池があります。そこには、たくさんのヒキガエルの卵塊と三日月状のトウキョウサンショウウオの卵塊がありました。ヒキガエルはまだ孵化していませんでしたが、サンショウウオは孵化しており、小さな幼生が見られました。空き容器ですくって、カップレンズに入れて観察すると、鰓や足もよく見ることができます。

菖蒲田の脇の道には、ムラサキケマンやタチツボスミレ、オオイヌノフグリなど春の野草が咲いていました。ちょうど、トリカブトの中毒事件があったばかりの折で、ニリンソウとの識別に参加者の方はよく興味を示されていました。

さて、斜面を登る道の脇に、カンアオイが咲いていました。私は今回の観察会で初めて見ましたが、三つの萼が開いている独特な姿に魅了されました。斜面の上からはサクラとカタクリが咲いている谷津を眺めることができ、美しい風景を作り出していました。

私の班はやや表面的な観察会になってしまいましたが、参加者の方からは、普段何気なく見ている自然をゆっくり見ることができてよかった、落ち葉の下や池の中の生き物を見ることができたなどの感想をいただきました。反省点としては、春の混雑している公園の中で行ったため、狭い通路などを通る際にもう少しく誘導する必要を感じました。